

<実践報告>

ティーチング・ポートフォリオを活用した
教育実習事前・事後指導の実践

谷塚光典 信州大学教育学部附属教育実践総合センター

東原義訓 信州大学教育学部附属教育実践総合センター

“Pre- and Post- Training for Teaching Practice”
Using Teaching Portfolios

YATSUKA Mitsunori: Center for Educational Research and Training,
Faculty of Education, Shinshu University

HIGASHIBARA Yoshinori: Center for Educational Research and Training,
Faculty of Education, Shinshu University

Center for educational research and training has the course, “pre- and post- training for teaching practice,” for the students who will take teaching practice at the attached schools of faculty of education, Shinshu University. In the course, teaching portfolios are used for enhancement of students’ results on teaching practice. The teaching portfolios consist of lesson plans and reflection sheets, which are based on INTASC standards and published on the web site.

【キーワード】 教育実習 ティーチング・ポートフォリオ 教師教育 INSTAC

1. はじめに

信州大学教育学部では、教育実習の事前と事後に行う教育実習に関する指導を通して教育実習の目的の達成をより確かなものにするために、「教育実習事前・事後指導」（1単位）を開設しており、平成5年度より附属教育実践総合センター（平成10年度までは附属教育実践研究指導センター）が担当している（小林・土井，1993；土井，1994，1995）。

平成10年度からの学部カリキュラム改革に伴い、この「教育実習事前・事後指導」は、「教育参加」（1年次）、「学校教育臨床演習」（2年次）、「教育実習事前・事後指導」「基礎教育実習」（3年次）、「応用教育実習」（4年次）という臨床経験科目を含む4年一貫した教員養成カリキュラムの中に位置付けられている。

「教育実習事前・事後指導」の中でも、事後指導においては、ティーチング・ポートフォリオを用いながら、教育実習を通して学んだものを振り返り、教育実習前と対比しつつ整理することによって、教育実習の成果を実り豊かなものにするをねらいとしている。

平成10年度より、教育実習で作成した学習指導案をWebページ化し、サーバ上で公開してきた。そして、平成13年度は、教育実習リフレクションシートをも合わせて、「教育実習Webポートフォリオ」として公開している。

本研究では、信州大学教育学部における「教育実習事前・事後指導」の実践について、教育実習Webポートフォリオを中心に検討し、ティーチング・ポートフォリオ作成の意義とこれからの教員養成カリキュラムのあり方を探ることを目的とする。

2. 平成13年度「教育実習事前・事後指導」の概要

平成13年度の「教育実習事前・事後指導」は、表1のように実施された。「教育実習事前・事後指導」は、前期水曜7・8限の「事前指導」と集中講義形式での事後指導からな

表1 平成13年度「教育実習事前・事後指導」実施計画

回	日程	内容	担当
1	4/11(水)	ガイダンス(1) 取得単位確認, 幼稚園実習の説明, 書類作成	教務委員会
2	4/18(水)	ガイダンス(2) 先輩たちの教育実習経験に学ぶ, 配属校の決定	教務委員会
3	4/25(水)	ガイダンス(3) 学生組織の決定, 学生相談室から	教務委員会
4	6/6(水)	教育実習の意義と歴史 「先生」としての教育実習生の一日	実践セ(谷塚) 実践セ(土井)
5	6/13(水)	目標分析と児童・生徒の実態把握 これができれば良い授業になる①	実践セ(東原)
6	6/20(水)	これができれば良い授業になる② 充実した教育実習にするために	実践セ(東原) 実践セ(上村)
7	6/27(水)	教師のこころ, 子どものこころ 授業参観のポイントと参観記録のとり方	実践セ(今田) 実践セ(谷塚)
8	7/4(水)	実地指導Ⅰ(授業参観, 学年懇談)	附属学校園教官
9	7/11(水)	実地指導Ⅱ(指導案づくり)	附属学校園教官
10	7/18(水)	実地指導Ⅲ(指導案作成, 学級懇談)	附属学校園教官
11	7/25(水)	教育界の現状と望ましい教師像 教育実習が始まるにあたって	県教委教学指導課長 教務委・学生委
12	9/20(木)	教育実習Webポートフォリオの作成①	実践セ(谷塚・東原)
13	11/14(水)	教育実習Webポートフォリオの作成②	実践セ(谷塚・東原)

※「実践セ」=附属教育実践総合センター

る。履修者は、「基礎教育実習」を履修する3年次生を中心として276名であった。実習校種は、小学校183名（うち24名が幼稚園実習も履修）、中学校93名である。

4週間にわたって行われる「基礎教育実習」は、学校教育教員養成課程の学生は主免を取得するために履修し、養護学校教員養成課程の学生は基礎免を取得するために履修し、そして、生涯スポーツ課程と教育カウンセリング課程の学生のうち教員免許の取得を希望する学生が履修するものである。「基礎教育実習」は、原則として全員が教育学部附属学校園で実習を行っている（一部、生涯スポーツ課程の学生についてのみ協力校実習を行う場合もある）。3年次に「基礎教育実習」を履修した学生のうち、副免の取得を希望する学生は、4年次に2週間の「応用教育実習」を履修することになる。

「基礎教育実習」の終了後の事後指導では、各実習校に提出する教育実習レポートとは別に、事後指導の課題として、次の3点の提出を課した。

①教育実習事前・事後指導アンケート

教職志望度や教職適性判断に関する調査（多肢選択法）と合わせて、本年度の教育実習事前・事後指導の授業評価を調査する。

②Web ページによる指導案の作成

平成10年度より、教育実習で作成した学習指導案のうち一つを選んで、PDFファイルとHTMLファイルを用いてWebページ化し、実践センターのサーバ上でインターネットを通して公開してきている。なお、Webページの作成方法については、2年次必修科目「コンピュータ利用教育」で修得している。

③教育実習をふりかえって一よりよい教師になるためのチェックポイント10-

教師としての専門性発達のプロセスを記録・評価する方法として、ティーチング・ポートフォリオを作成し、学生が自己の教育実習経験を振り返る。

このうち、②と③を、サーバ上で公開している。

3. ティーチング・ポートフォリオの作成による教育実習の振り返り

日本の教育界においては、「総合的な学習の時間」などの評価法として導入されつつあるポートフォリオ評価であるが、ポートフォリオは、教師教育（教員養成、現職教育ともに）においても有効であることがいわれている。例えば、Bullock and Hawk (2001)は、「ポートフォリオを通して、教員養成段階の学生は、教えるための知識の獲得や教える能力をまとめることができる。そして、大学教員は、学生に現れつつある能力や知識の反省を促すことができる」と述べている。また、Costantino and De Lorenzo (2002)は、「ポートフォリオは、教師の仕事のオーセンティックな証拠を提供するものであり、教育実践に関する振り返りを促す手段である」として、ティーチング・ポートフォリオを意義づけている。

それでは、教職志望学生の教育経験を教職の職能発達に有効に関連づけ、教育実習における自己の成長を振り返るためには、どのような観点を用いればよいのであろうか。

平成9年7月の教育職員養成審議会第1次答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方

策について」では、今後特に教員に求められる資質能力として、つぎの3点を挙げている。

地球的視野に立って行動するための資質能力
変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力
教員の職務から必然的に求められる資質能力

この答申では、「未来に生きる子どもたちを育てる教員には、まず、地球や人類の在り方を自ら考えるとともに、培った幅広い視野を教育活動に積極的に生かすことが求められる。さらに、教員という職業自体が社会的に特に高い人格・識見を求められる性質のものであることから、教員は変化の時代を生きる社会人に必要な資質能力をも十分に兼ね備えていなければならない。これらを前提に、当然のこととして、教職に直接関わる多様な資質能力を有することが必要と考える」としており、変化の激しい時代における教員の具体的な資質能力について検討している。

また、平成14年度長野県公立学校教員採用選考要項では、選考における評価の主な観点として、次の7項目が明記されている。

教育愛や情熱をもっていること
バランスのとれた人格をもっていること
社会人として広い視野をもっていること
幅広い教養をもっていること
教科の専門性に優れていること
論理的な思考ができ、創造性をもっていること
将来性をもっていること

しかしこれらの観点は、いずれも抽象的であって、4週間の教育実習を通してこれらの資質能力が身に付いているのかを学生が自己評価することは難しい。

米国のINTASC (The Interstate New Teacher Assessment and Support Consortium) では、教員養成改革のために「INSTACスタンダード」を作成し、教員として満たすべき条件を客観的に分析する明確な基準を提供している。米国の多くの州では教員免許申請時にこのINSTACスタンダードに基づいて作成したティーチング・ポートフォリオを提出することによって、教員としての資質を証明している。

そこで、「教育実習事前・事後指導」では、INTASCスタンダードに基づく教育実習リフレクションシートを作成し、Web化した学習指導案と合わせてティーチング・ポートフォリオとしてまとめてWebページで公開することを、事後指導の課題としている。

このリフレクションシートの項目は、表2のとおりである。この10項目について3つの場面（教育実習前、教育実習中、教育実習後）からそれぞれふり返ることによって、教育実習を通して身につけてきた教職の専門性を自己評価することができ、そして、教育実習後から卒業までの課題を明確にすることができる。

表2 「教育実習リフレクションシート」の項目

項目	項目の説明
1. 教科内容	教師は、自分が教えそして学習経験を創造することのできる、その中心的概念、探究の方法、学問領域の構造を理解している。ここでの学習経験とは、教科内容に関するこれらの側面を子どもにとって有意義なものにするようなものである。
2. 子どもの学習	教師は、子どもたちがどのように学習し発達するのかを理解している。そして、知的・社会的・個人的発達を支援する学習機会を提供することができる。
3. 多様な子ども	教師は、子どもによって学習の仕方がどのように違うのかを理解している。そして、個々の多様な子どもに応じた学習指導の機会を創造する。
4. 教授方略	教師は、批判的思考、問題解決、実践スキルについての子どもの発達を促進するための様々な学習指導方略を理解して用いる。
5. 学習環境	教師は、積極的な社会的相互作用、学習への活発な取り組み、自己の動機づけを促進する学習環境を創造するために、個人及びグループの動機づけや態度についての理解を用いる。
6. コミュニケーション	教師は、教室における積極的な探究、協働、協力的相互作用を促進するために、効果的な言語的、非言語的、メディアのコミュニケーション技術の知識を用いる。
7. 指導計画	教師は教科内容、子ども、地域社会、教育目標に関する知識に基づいて、学習指導を計画する。
8. 評価	教師は、子どもの知的・社会的・身体的な持続的発達を評価し保証するために、形式的あるいは非形式的な評価方略を理解して用いる。
9. 反省と専門職としての成長	教師は、自分の選択や行為が他者（子ども、保護者、学習コミュニティの中での他の専門家）に与えた効果を継続的に評価する反省的实践家であり、専門職として成長するための機会を積極的に求めている反省的实践家である。
10. 協働、倫理、連携	教師は、子どもの学習や幸福を支援するために、学校の同僚、保護者、そしてより広範囲なコミュニティにおける機関との連携を促進する。

4. 「教育実習 Web ポートフォリオ」の実際

「教育実習事前・事後指導」の事後指導の課題として課される「教育実習 Web ポートフォリオ」は、「Web ページによる指導案の共有」（図1、図2）と、「教育実習リフレクションシート」（表3）から成る。

このうち、「Web ページによる指導案の共有」は、HTML形式の概要部と、PDF形式の

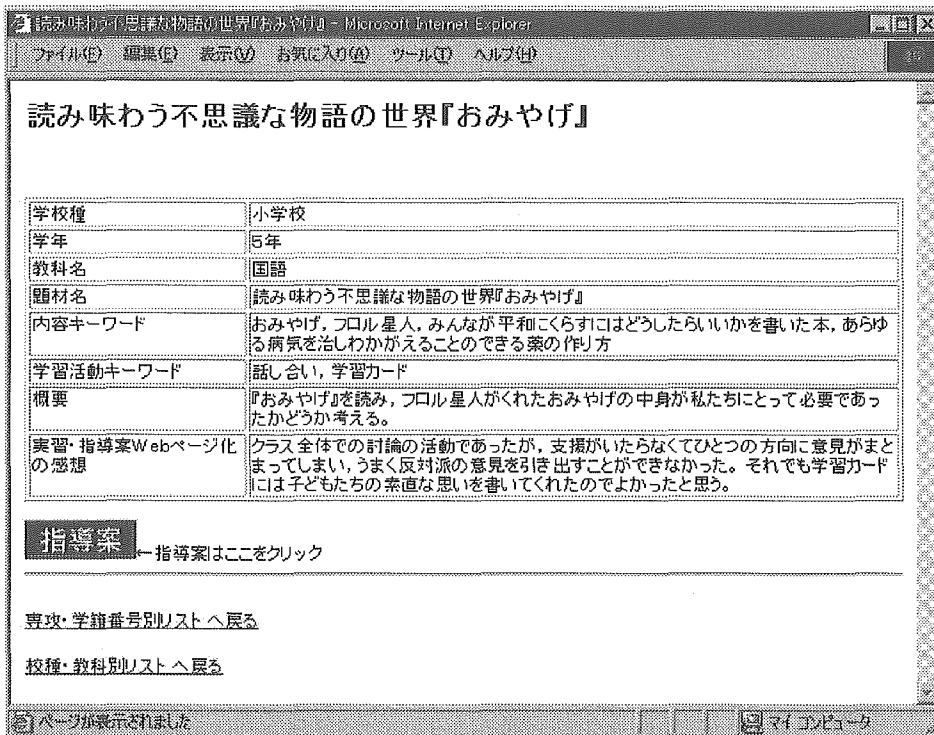


図1 「Web ページによる指導案の共有」概要部

国語科 本時の学習計画 第2次案

9月6日(木) 第4校時
5学年

題材 「読み味わう不思議な物語の世界『おみやげ』」

(1) 学習のおらい

フロル星人がくれたおみやげの中身が, わたしたちにとって必要であるかどうか意見を出し合うことを通して, わたしたちの生活について考え, 自分たちの力で世の中をよくなっていくという思いを持つことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	予想される子どもの動き	時間	支援
1. 本文を読もう	前時の学習でおみやげの中身について考え, おみやげが発見されたらもつとすごい世界になっていたのに残念だなあ, という思いと, 本当におみやげが必要なのかという疑問がでてきた。	5分	場所: 教室 0 物語の世界に入り込めるように, 物語を概観する
2. おみやげの中身について考え, 意見を話し合おう	<p>〈学習課題〉 私たちに, おみやげは必要だったのだろうか</p> <p>おみやげの中身って必要だったのかな</p> <p>みんなが平和に暮らすには, どうしたらいいかを書いた本は必要だったのだろうか</p> <p>この本にはどんなことが書いてあるのだろうか</p> <p>仲良くなる方法が書いてあるのかな</p> <p>それだとあんまり効果なさそう</p> <p>必要だと思っていたが, 本があっても平和になるとは思えないなあ</p>	20分	学習材: 平和に暮らすにはどうしたらいいかを書いた本 0 前回はどんなことをやったのか問いかけることで思い出す。 ・前回の振り返しにならないように, 新しい発問を引き出す。 ・板書は, 黒板ではなく, 磁気紙に書く。子どもたちの発問をそのまま複写して書き取り, 子どもたちが互いの意見を参

図2 「Web ページによる指導案の共有」本体部

本体部から成る。また、「教育実習リフレクションシート」は、Excel形式で作成したファイルをPDFファイルに変換している。そして、これらは、信州大学教育学部附属教育実践総合センターのWebサーバ (<http://cert.shinshu-u.ac.jp/>) で公開している。

これらを作成した学生たちからは、「教育実習を、客観的に、多面的に、自分では気付かなかった観点から、振り返ることができた」「今後の課題や自分に不足していることを明らかにすることができた」「教育実習について記録を残すことができた」などの感想を聞くことができた。

5. おわりに

「教育実習事前・事後指導」の課題として教育実習 Web ポートフォリオを作成することによって、学生が教職臨床経験を累積的に記録して、自己の教職専門性の成長過程を客観的な基準を用いて振り返り、今後の課題を明確にすることができることがわかった。そしてさらに、学部において学生が履修した科目が教育実習にどのように役立っているかを明確な基準から分析し、教員養成カリキュラムの改善充実の具体的な方策を提示することもできる。

今後は、教育実習 Web ポートフォリオの構成要素、評価規準（ルーブリック）、効果的な利用法について、検討を深めていく必要がある。

<文献>

小林輝行・土井進（1993）「授業科目『教育実習事前・事後指導』の開設について」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』1, pp.169-179.

教育職員養成審議会（1997）「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について（第1次答申）」（1997.7.28）

土井進（1994）「『教育実習事前・事後指導』の実践上の諸問題(1)」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』2, pp.35-47.

土井進（1995）「『教育実習事前・事後指導』の実践上の諸問題(2)」『信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』3, pp.101-108.

信州大学教育学部編（1998）『信州大学教育学部における教育実習改革』（平成9年度カリキュラム改革調査研究経費報告書）。

Bullock, A. A. and Hawk, P. (2001) *Developing a Teaching Portfolio: a guide for preservice and practicing teachers*. Prentice-Hall.

Campbell, D. M. et al., (eds.) (2001) *How to Develop a Professional Portfolio: A Manual for Teachers*, Second Edition. Allyn & Bacon.

Costantino, P. M. and De Lorenzo, M. N. (2002) *Developing A Professional Teaching Portfolio: A Guide For Success*. Allyn & Bacon.

(2002年3月31日 受付)